

看護学生の自己効力感 (Self-Efficacy) に関する研究 (第2報)

—看護学生の背景と自己効力感との関連—

松 永 保 子*・遠 藤 恵 子*・井 上 京 子*・三 澤 寿 美*
藤 田 あけみ*・佐 藤 幸 子*・遠 藤 芳 子*・佐 竹 真 次**

Studies on the Self-Efficacy of Nursing Students in a College (2nd Report)

— On the Relationship with the Background of Nursing Student —

Yasuko MATSUNAGA, Keiko ENDO, Kyoko INOUE, Sumi MISAWA

Akemi FUJITA, Yukiko SATO, Yoshiko ENDO, Shinji SATAKE

Abstract : The self-efficacy was studied in terms of 80 students of the nursing course in Y colleges, with regards to their background.

The result showed that the students were greatly influenced by nurses in their family members and their self-efficacy was high. And the self-efficacy of students who have the pride for nursing was high, though there seemed no statistical coherency to challenge, valuableness and endurance. Providing the self-efficacy scale for nursing students is necessary.

Key words : nursing student, self-efficacy, nursing education, background of nursing student

はじめに

Bandura¹⁻³⁾ は、社会的学習理論のなかで、先行要因、結果要因、認知要因の3つが人間の行動を決定する要因であり、これらの3要因が複雑に絡み合っ人と行動および環境の相互作用が形成されると言っている。なかでも行動の先行要因として特に予期機能を重視しており、自己効力感 (self-efficacy) は、この先行要因の中の重要な概念と位置づけている。

自己効力感とは、ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度遂行できるかという個人の認

知を意味する。すなわち、ある行動を起こす前に感じる自己遂行可能感、自分はこのようなことがここまでできるのだ、という思いが自己効力感である。

近年の学生の行動特徴に関して、無気力、無関心、無責任という、いわゆる「3無」が言われ出してから随分久しい。この「3無」の根本に存在するのは、「無力感」ではないだろうか。Bandura¹⁻³⁾ は、人の自己効力感が低い時には無気力、無関心、無感動になり、あきらめが早い、失望しやすい、落胆しやすい、劣等感に陥りやすい、自己卑下する、うつ状態に陥るなどの行動特徴を示すと述べている。また、Overmeier と Seligman⁴⁾ の犬を被験体とした実験に端を発した「獲得された無力感 (Learned Helplessness)」の理論は、その後 Thornton と Jacobs⁵⁾ や Hiroto⁶⁾、Hiroto と Seligman⁷⁾ などによって人間が対象となり、自己効力感との関連の

* 山形県立保健医療短期大学看護学科
Department of Nursing, Yamagata School of Health Science

** 山形県立保健医療短期大学基礎教育
Basic Education, Yamagata School of Health Science
〒990-2212 山形市上柳 260 番地
260 Kamiyanagi, Yamagata-shi, 990-2212 Japan

研究が行われるようになった。日本においても、坂野や前田ら⁸⁻¹⁰⁾が自己効力感についての研究を多数行っている。

教育の効果は、学生にいか「やる気」を持たせるかによって大きく左右される。学生の自己効力感を高めることは、無力感を払拭し、学習意欲を高めることにつながると考える。それゆえ、学生に自己効力感がどの程度あり、また、それはどこから起因するのか、すなわち、学生自身の生育歴からなのか、社会的背景から獲得されたものなのか、などを検討する意義は十分にあると思われる。

第1報¹¹⁾では、基礎看護技術演習「血圧測定」の前後に学生の自己効力感を測定し、その変化とそれに影響する要因について検討した。その結果、演習前に比べ、演習後の自己効力感は有意に上昇した。その上昇には、学生の意識とも深く関わっている部分があると推測されるが、第1報ではそこまで調査していない。

本報は、看護教育において、自己効力感をさらに高める方法を見い出すべく、学生の入学直後の自己効力感と入学前の背景や看護に対する意識との間に、どのような関連があるのかを明らかにすることを目的とする。

方 法

1. 研究対象および時期

Y短大看護学科の1年次学生80名(女性78名、男性2名)を対象に、1998年6月に実施した。学生には、この調査が研究のためのものであり、個人的な情報は一切外部に漏れないことを伝えて協力を求め、同意を得た。

2. 測定方法

自己効力感の測定には、Shererら¹²⁾の尺度を成田ら¹³⁾が翻訳した23項目からなる自己効力感尺度(SE尺度)を、あてはまる場合を「YES」、当てはまらない場合を「NO」の2件法で用いた(Table 1)。「YES」を1点としたので、得点は0～23点となり、得点が高いほど自己効力感が高いことになる。今回使用した成田らのSE尺度の項目は本来双極の5件法であるが、2件法に変えて測定した理由については第1報¹¹⁾で述べた。さらに、学生の背景や看護に対する意識などに関する項目で構成した21項目のアンケート(Table 2)を作成し調査した。

3. 分析方法

今回は21項目のアンケートの中から、自己効力感にかなり影響すると考えられる項目、「Q8. あなたの家族の中に看護職はいますか」「Q9. あなたはこれまでに家族が病気になった時、看護をした経験がありますか」「Q16. 現在、あなたは看護学生であるということに誇りをもっていますか」「Q17. 今、あなたは、看護の仕事はあなたにとってやりがいのある仕事だと思っていますか」「Q18. 今、あなたが、一般の高校生から看護職になりたいのだからと相談されたら、なることをすすめますか」「Q19. 看護職は、一般の仕事と違い尊い仕事だという意見がありますが、これはあなたの考えとどの程度一致していますか」「Q21. あなたは看護職を一生なんらかの形で続けると考えますか」の7項目を選び、自己効力感得点との関連を検討した。

これらの項目のうちQ8とQ9は選択肢の1番を「有」、2番を「無」の2群に分けてt検定を行った。また、Q16とQ19は選択肢の1番を「思っている」、2番を「どちらともいえない」、3番を「思っていない」の3群に分けて、3群間での分散分析を行った。Q17とQ18とQ21は1番と2番を「思っている」、3番を「どちらともいえない」、4番と5番を「思っていない」の3群に分けて、3群間での分散分析を行った。さらに、Q16、Q17、Q18、Q19、Q21については、「思っている」と「どちらともいえない」、「どちらともいえない」と「思っていない」、「思っている」と「思っていない」の各2群間でt検定を行った。

結 果

Table 3は、アンケートのQ8、Q9、Q16、Q17、Q18、Q19、Q21の回答結果である。Q8において、家族に看護職のいる学生は19名(23.8%)、いない学生は61名(76.3%)、Q9において、家族の看護経験のある学生は36名(45.0%)、ない学生は44名(55.0%)であった。Q16において、看護学生であることに誇りをもっている学生が45名(56.3%)、どちらともいえない学生が33名(41.3%)、持っていない学生が2名(2.5%)であった。Q17において、看護の仕事はやりがいがあると思っている学生が48名(60.0%)、まあそう思っている学生が24名(30.0%)、どちらともいえない

Table 1 自己効力感尺度

つぎの質問に答えてください。質問は、全部で23問あります。右の応答欄の中から、あてはまる場合には「Yes」、あてはまらない場合には「No」を○で囲んでください。Yes, No どちらにもあてはまらないと思われる場合でも、より自分に近いと思う方に必ず○をつけてください。この調査は成績などとは関係なく、どちらが正しい答えということでもありません。あまり深く考えずにありのまま答えてください。

1. 自分が立てた計画は、うまくできる自信がある。	Yes	No
2. しなければならないことがあっても、なかなか取りかからない。	Yes	No
3. 初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける。	Yes	No
4. 新しい友達を作るのがにがてだ。	Yes	No
5. 重要な目標を決めても、めったに成功しない。	Yes	No
6. 何かを終える前にあきらめてしまう。	Yes	No
7. 会いたい人を見かけたら、向こうから来るのを待たないでその人の所へ行く。	Yes	No
8. 困難に会うのを避ける。	Yes	No
9. 非常にややこしく見えることには、手を出そうとは思わない。	Yes	No
10. 友達になりたい人でも、友達になるのが大変ならばすぐに止めてしまう。	Yes	No
11. 面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる。	Yes	No
12. 何かをしようと思ったら、すぐにとりかかる。	Yes	No
13. 新しいことを始めようと決めても、出だしでつまづくとすぐにあきらめてしまう。	Yes	No
14. 最初は友達になる気がしない人でも、すぐにあきらめないで友達になろうとする。	Yes	No
15. 思いがけない問題が起こった時、それをうまく処理できない。	Yes	No
16. 難しそうなことは、新たに学ぼうとは思わない。	Yes	No
17. 失敗すると、一生懸命やろうと思う。	Yes	No
18. 人の集まりの中では、うまく振る舞えない。	Yes	No
19. 何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる。	Yes	No
20. 人に頼らない方だ。	Yes	No
21. 私は自分から友達を作るのがうまい。	Yes	No
22. すぐにあきらめてしまう。	Yes	No
23. 人生でおきる問題の多くは処理できるとは思えない。	Yes	No

終わったら、すべての質問に○がついているかどうか確かめてください。

い学生が8名(10.0%)、やりがいがないと思っている学生はいなかった。Q18において、高校生に看護職になることを強くすすめる学生は2名(2.5%)、すすめる学生が41名(51.3%)、どちらともいえない学生が36名(45.0%)、すすめない学生が1名(1.3%)、強く反対する学生はいなかった。Q19において、看護職は尊い仕事であると考えている学生が32名(40.0%)、どちらともいえない学生が39名(48.8%)、そう考えていない学生が9名(11.3%)であった。Q21において、看護職を一生続けると思っている学生が14名(17.5%)、続けたいと思っている学生が52名(65.0%)、どちらともいえない学生が14名(17.5%)、やめたいと思っている学生はいなかった。

第1報¹¹⁾で述べたごとく、自己効力感の全体の平均点は5.11、標準偏差が1.65、最高は9点、最低は1点であり、ほぼ正規分布を示していた。Table 4とTable 5に示したように、Q8, Q9の「有」およびQ16, Q17, Q18, Q19, Q21の「思っている」の平均点は、全て「5.11」以上であった。

Q8とQ9において「有」と「無」の2群での

Table 3 質問の選択肢の例数と割合(%)

質 問	選 択 肢 番 号	例 数	割 合 (%)
Q8	1	19	23.8
	2	61	76.3
Q9	1	36	45.0
	2	44	55.0
Q16	1	45	56.3
	2	33	41.3
	3	2	2.5
Q17	1	48	60.0
	2	24	30.0
	3	8	10.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
Q18	1	2	2.5
	2	41	51.3
	3	36	45.0
	4	1	1.3
	5	0	0.0
Q19	1	32	40.0
	2	39	48.8
	3	9	11.3
Q21	1	14	17.5
	2	52	65.0
	3	14	17.5
	4	0	0.0
	5	0	0.0

Table 2 アンケート

<p>Q1. 年齢 () 歳</p> <p>Q2. 同居家族 () 人</p> <p>Q3. 同胞数 あなたも含めて () 人</p> <p>Q4. 祖父母の同居の有無 1. あり 2. なし</p> <p>Q5. 現在の住居 1. 自宅 2. 自宅外</p> <p>Q6. あなたが高校を卒業したとき, あなたのお父さんは仕事をなさっていましたか。 1. 仕事をしていた 2. 仕事をしていなかった 3. 既に死亡</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">その仕事は, この中のどれにあたるでしょうか。</p> <p>1. 農林漁業 2. 自営業主, 中小企業主 3. 専門・技術的職業 (医師, 技術者, 教師など) 4. 管理的職業 (会社や官庁の課長, 部長, 重役など) 5. 大企業 (1,000 人以上) のサラリーマン (事務やセールスなど) 6. 中小企業 (1,000 人未満) のサラリーマン (事務やセールスなど) 7. 大企業 (1,000 人以上) の工員 8. 中小企業 (1,000 人未満) の工員, 販売員 9. その他 ()</p> <p>Q7. あなたのお母さんは, 結婚後, 仕事をなさっていましたか。 1. 結婚後全く仕事をしていなかった。 2. 結婚後しばらくの間は仕事をしていましたが, その後はやめている。 3. 子供たちがある程度大きくなってから再び仕事についた。 4. 結婚後ずっと仕事を続けている。</p> <p>Q8. あなたの家族の中に看護職はいますか。 1. いる (続柄:) 2. いない</p> <p>Q9. あなたはこれまでに家族が病気になった時, 看護をした経験がありますか。 1. ある 2. ない</p> <p>Q10. あなたの高校の設置主体は次のうちどこにあたりますか。 1. 国・公立 2. 私立</p> <p>Q11. あなたが看護短大を受験することを話したとき, あなたのご両親はどのような反応をしましたか。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>賛成</td> <td>どちらともいえない</td> <td>反対</td> </tr> <tr> <td>父</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>母</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </table> <p>Q12. あなたが看護の道を選択した理由は次のうちどれですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。 1. 一生役立つ知識・技術の修得のため 2. 仕事を通しての人間の成長のため 3. 社会への貢献 4. 社会的必要性を感じて 5. 精神的・経済的自立のため 6. 自己の興味・適性からみて 7. あこがれ 8. 社会的評価・地位を得るため 9. 家族やまわりの人の面倒をみたい 10. その他 (具体的に)</p> <p>Q13. あなたは看護短大入学時, どのような職種に就きたいと考えていましたか。 1. 看護婦 2. 養護教諭 3. 助産婦 4. 看護教員 5. 保健婦</p>		賛成	どちらともいえない	反対	父	1	2	3	母	1	2	3	<p>6. その他の職種 (具体的に) 7. 職に就くつもりはない</p> <p>Q14. その志望は入学後も変化していませんか。 1. 変化していない → 次の問へ 2. 変化した * それはどのような変化ですか () * 何かきっかけがありましたか (具体的に)</p> <p>Q15. 現在振り返ってみて, 高校を卒業したときのあなたの進路選択はどうであったと思いますか。 1. 間違っていなかったと思う 2. まあ大した間違いはなかったと思う 3. わからない 4. いろいろと問題があったようだ 5. 間違っていたと思う</p> <p>Q16. 現在, あなたは看護学生であるということに誇りをもっていますか。 1. 誇りをもっている 2. どちらともいえない 3. 誇りをもっていない</p> <p>Q17. 今, あなたは, 看護の仕事はあなたにとってやりがいのある仕事だと思っていますか。 1. とてもやりがいがある 2. まあやりがいがある 3. どちらともいえない (わからない) 4. あまりやりがいがない 5. 全くやりがいがない</p> <p>Q18. 今, あなたが, 一般の高校生から「看護職になりたいのだが」と相談されたら, なることをすすめますか。 1. 強くすすめる 2. すすめる 3. どちらともいえない (わからない) 4. すすめない 5. 強く反対する</p> <p>Q19. 「看護職は, 一般の仕事と違い尊い仕事だ」という意見がありますが, これはあなたの考えとどの程度一致していますか。 1. ほぼ一致している 2. どちらともいえない 3. ほとんど一致していない</p> <p>Q20. 女性が職業をもち外で働くことについて世間にはいろいろな意見があります。下記の意見のうち, あなたの意見に一番近いのはどれですか。 1. 女性は職業を持たない方がよい 2. 結婚するまで職を持った方がよい 3. 子供ができるまで職を持った方がよい 4. 子供ができて可能な限り続けた方がよい 5. 子供が小さい間はやめて, ある程度大きくなってから再就職する方がよい 6. わからない 7. その他 (その時の状態による)</p> <p>Q21. 今, あなたは看護職を一生なんらかの形で続けると思っていますか。 1. かならず続ける 2. 続けたいとは思っている 3. どちらともいえない (わからない) 4. できればやめたい 5. やめたい</p>
	賛成	どちらともいえない	反対										
父	1	2	3										
母	1	2	3										

Table 4 Q 8, 9 の自己効力感の平均点 (例数)

	Q8 家族に看護職の有無	Q9 看護の経験の有無
有	5.790 (n=19) **	5.417 (n=36)
無	4.902 (n=61)	4.864 (n=44)

** : $p < .01$

t 検定の結果は, Q8「家族に看護婦の有無」に有意差 ($t=2.761$, $p<.01$) が認められた (Table 4)。

Q16, Q17, Q18, Q19, Q21において, 「思っている」, 「どちらともいえない」, 「思っていない」の3群間の分散分析ではどこにも有意差が認められなかったが, 「思っている」と「どちらともいえない」, 「どちらともいえない」と「思っていない」, 「思っている」と「思っていない」の各2群間のt検定では, Q16「誇り」の「思っている」と「どちらともいえない」の間に有意差 ($t=2.309$, $p<.05$) が認められ, Q21「継続」の「思っている」と「どちらともいえない」の間が有意傾向であった (Table 5)。

考 察

Hackett と Bets¹⁴⁾ は, 女性の進路選択の狭さが女性の自己効力感によるものであると考え研究を行った。男女大学生に20種類の職業を提示し, ①その職業に必要な教育を確実に修了できるか, ②その職業の職務を確実に遂行できるか, について自己効力感を測定した結果, ①に関しては10の職種で, ②に関しては9の職種で女性の自己効力感が低いことを見つけ出した。また, 20種類の職業を伝統的に女性向きと思われるものとそうではないと思われるものとに分けて分析し, 男性は両方の職種に同程度の自己効力感を示したのに, 女性は伝統的に女性向きとは思われない職種に対

して, より低い自己効力感を示したということも述べている。この結果は, 自己効力感が職業選択・進路選択に影響を及ぼすことを示したものであり, さらに, 職業選択・進路選択と自己効力感との関連がいくつかの研究¹⁵⁻¹⁸⁾でも明らかにされている。

本研究は, 看護という職業を選んだ動機に関係すると思われる学生の背景や意識について検討したので, 職業選択・進路選択との直接の関連は明らかになっていない。しかしながら, いまだに看護職を志す学生の多くが女性であることを思うと, 看護という職業が一般に女性向きの仕事であると思われていると考えるが, Hackett と Bets¹⁴⁾ の研究結果により, 職業として看護職を選んだ学生には, その時点で自己効力感が高い者が多いということになる。

今回, 全体の自己効力感の平均点は23点満点の「5.11」であった。このことだけを考えると, 一般的に今回の被験者の自己効力感は低いように感じられる。しかしながら, 信頼性と妥当性が十分に検証された成田ら¹³⁾の双極5件法のSE尺度を2件法に変えて調査したので, 「5.11」という数字だけを取り上げて自己効力感が低いとは必ずしもいえない。

また, 仮に平均点以上を自己効力感が高いとすると, 今回取り上げたアンケート7項目の「有」および「思っている」の自己効力感の平均点全てが「5.11」以上であったので, 「有」および「思っている」学生の自己効力感が高いということになるが, 本研究で自己効力感の高低を論じることは難しい。

竹綱ら¹⁹⁾は今後検討する必要がある問題を3つ (測定方法, 情報源, 一般性の次元) あげ, 測定方法の問題を指摘している。これからは看護学生に即したSE尺度の開発が必要となろう。

しかしながら, 今回の結果は, 一般に家族に看

Table 5 Q16, 17, 18, 19, 21 の自己効力感の平均点 (例数)

	Q16 誇り	Q17 やりがい	Q18 看護職をすすめる	Q19 尊い仕事	Q21 看護職を継続
思っている	5.467 (n=45) *	5.167 (n=72)	5.279 (n=43)	5.219 (n=32)	5.258 (n=66)
どちらともいえない	4.606 (n=33)	4.625 (n=8)	4.889 (n=36)	4.897 (n=39)	4.429 (n=14)
思っていない	5.500 (n=2)	0.000 (n=0)	6.000 (n=1)	5.667 (n=9)	0.000 (n=0)

* : $p < .05$

看護職がいる学生の自己効力感が高いことを示したと考える。Bandura¹⁻³⁾ は、自己効力感はひとりで湧き出してくるものではなく、よく自覚して主体的に考えて、自分にはここまでできるのだということを見出すことによって、内発的に作り上げられていくものであり、「遂行行動の達成」「代理的経験（モデリング）」「言語的説得」「生理的・情動的状态」の4つの情報を通じて作り出されると述べている。家族に看護職がいる学生は、すぐ側にいる実際のモデルから看護についての情報を得ることで「代理的経験」をしたと考えられる。家族に看護職がいるかどうかは教員側で操作できる問題ではないが、今回の結果から、家族に看護職がいることの影響は大きく、それがポジティブな方向に働き、相対的に自己効力感が高くなることは明らかである。

看護の経験があるかどうかについては、行動後の本人の満足感や達成感が自己効力感を高める「遂行行動の達成」にあたると考えられる。しかし、今回、看護の経験の有無に統計学的な有意差は認められなかった。これは、看護の経験が必ず自己効力感を高める方向に働くわけではないこと、つまり、看護の経験で必ず満足感や達成感が得られるわけではないことが示唆されたと考える。多くの場合において、その経験は学生にとってあまり心地よい結果とはならなかったのであろう。看護を行った方法が不適切であったのかもしれない。最も、入学前に学生が看護を理解して、看護を定義していたとは思われないし、看護らしきことをしたとしても、その経験が看護であったかどうかもわからない。さらに十分な検討が必要と考える。

また、明確に看護に対する誇りを持っている学生は、自己効力感が高いという結果も示された。誇りの定義も個人によってかなり異と思われるが、逆に、どのようなものであれ看護に対し誇りを持っていれば、自己効力感を高めることができると示されたと考える。しかし、いまだ「看護職の仕事は医師の手伝いをする」と思って入学してくる学生もあり、看護の本質はそうではないと強く意識づけるためにも、確固とした職業的自尊心を持つような働きかけが必要である。

一方、やりがいを感じる、尊い仕事とと思っていること、看護職を継続することなどと自己効力感の高さとは、必ずしも統計学的な一致は見られな

かった。これらに対してどのような働きかけが有効か、これもこれから十分に検討していきたい。

Bandura¹⁻³⁾ は、認知された自己効力感をあらかじめ測定しておくことによって、様々な種類の行動変化の度合いを予測することができるとも言っている。自己効力感を測定しておけば、自分の看護行動の予測ができ、効率よい看護実践も可能になり、また、自己効力感を高めることは、看護に対する職業意識や意欲を高めることにつながると考える。しかしながら、今まで看護学生の自己効力感に関する研究はあまりみあたらない。より効果的な看護教育方法を開発するために重要な課題であり、十分に研究されるべき課題と考える。

文 献

- 1) Bandura, A. : Self-efficacy : Toward a unifying theory of behaviorl change. *Psychological Review* 84, 191-215, 1977.
- 2) Bandura, A. : *Social leaning theory*. Prentice-Hall. 1977. (原野光太郎監訳, 社会的学习理論, 1980, 金子書房)
- 3) Bandura, A. (重久剛訳) : 自己効力 (セルフ・エフィカシー) の探究. 祐宗省三, 原野光太郎, 柏木恵子, 春木豊編 *社会的学习理論の新展開*, 103-141, 1985, 金子書房.
- 4) Overmeier, J. B. & Seligman, M. E. P. : Effects of inescapable shock upon subsequent escape and avoidance learning. *Jornal of Comparative and Physiological Phychology* 63, 23-33. 1967.
- 5) Thornton, J. W. & Jacobs, P. D. : Learned helplessness in human subjects. *Journal of Experimental Psychology* 87, 367-372, 1971.
- 6) Hiroto, D. S. : Locus of control and learned helplessness. *Journal of Experimental Psychology* 102, 187-193, 1974.
- 7) Hiroto, D. S. & Seligman, M. E. P. : Generality of learned helplessness in man. *Journal of Personality and Social Psychology* 31, 311-327, 1975.
- 8) 坂野雄二, 前田基成, 東條光彦 : 獲得された無力感の解消に及ぼす Self-Efficacy の効果. *行動療法研究* 13, 43-53, 1988.
- 9) 坂野雄二, 前田基成 : 虚偽の心拍フィードバックがセルフ・エフィカシーの変動と心拍コントロールに及ぼす効果. *千葉大学教育学部研究紀*

- 要 35, 23-33, 1987.
- 10) 前田基成, 坂野雄二, 東條光彦: 系統的脱感作法による視線恐怖反応の消去に及ぼす SELF-EFFICACY の役割. 行動療法研究 12, 68-80, 1987.
- 11) 遠藤恵子, 松永保子, 遠藤芳子, 佐藤幸子, 井上京子, 三澤寿美, 藤田あけみ, 佐竹真次: 看護学生の自己効力感 (Self-efficacy) に関する研究 (第1報) - 基礎看護技術演習による自己効力感の変化と影響する因子 -. 山形保健医療研究 2, 7-13, 1999.
- 12) Sherer, M., Maddux, J. E., Mercandante, B., Prentice-Dunn, S., Jacobs, B. & Rogers, R. W. : The self-efficacy scale: Construction and validation. Psychological Reports 51, 663-671, 1982.
- 13) 成田健一, 下仲順子, 中里克治, 河合千恵子, 佐藤眞一, 長田由紀子: 特性的自己効力感尺度の検討 - 生涯発達の利用の可能性を探る -. 教育心理学研究 43, 306-314, 1995.
- 14) Hackett, G. & Betz, N. E. : A self-efficacy approach to the career development of women. Journal of Vocational Behavior 21, 326-339, 1981.
- 15) Betz, N. E. & Hackett, G. : The relationship of mathematics self-efficacy expectations to the selection of science-based college majors. Journal of Vocational Behavior 23, 324-345, 1983.
- 16) Hackett, G. : The role of mathematics self-efficacy in the choice of math-related majors of college women and men: A path analysis. Journal of Counseling Psychology 32, 47-56, 1985.
- 17) Taylor, K. M. & Betz, N. E. : Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision. Journal of Vocational Behavior 22, 63-81, 1983.
- 18) Wheeler, K. G. : Comparisons of self-efficacy and expectancy models of occupational preferences for college males and females. Journal of Occupational Psychology 56, 73-78, 1983.
- 19) 竹綱誠一郎, 鎌原雅彦, 沢崎俊之: 自己効力に関する研究の動向と問題. 教育心理学研究 36, 172-184, 1988.
- 1998. 11. 10. 受稿, 1999. 1. 8. 受理 -

要 約

Y 短大看護科の1年次学生 80 名を対象に自己効力感の測定を行い, 学生の背景や看護に対する意識との関連を検討した。

家族に看護職がいる影響は大きく, 相対的に学生の自己効力感が高くなることが明らかになった。また, 看護に対して誇りを持っている学生は自己効力感が高いという結果も示された。しかしながら, やりがいを感じる, 尊い仕事と思っていること, 看護職を継続することなどと自己効力感の高さとは, 必ずしも統計学的な一致は見られなかった。さらに, 看護学生に即した自己効力感尺度の開発が必要と考えられた。

キーワード: 看護学生, 自己効力感, 看護教育, 看護学生の背景